

もっと知りたい ふるさと

70

千曲市指定文化財 「豪族居館型山城」

小坂城跡の今昔

はじめに

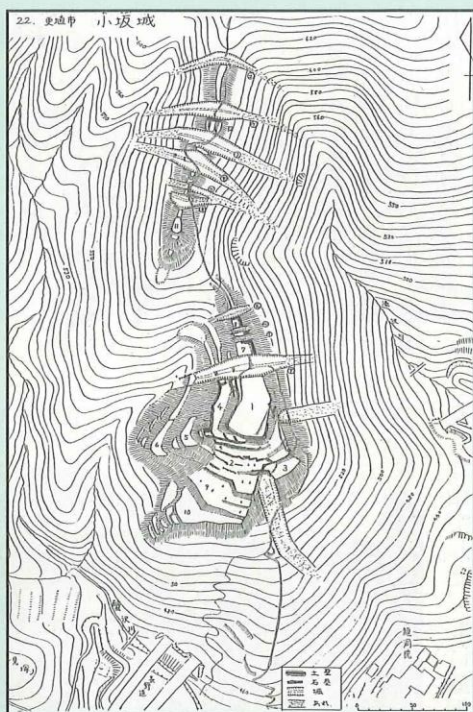
桑原地籍には39の遺跡があります。旧石器時代の佐野山遺跡、縄文時代の小坂西遺跡や鳥林遺跡、弥生時代から中世の桑原遺跡群、塚穴古墳に代表される墓など各時代の特色ある遺跡が数多く存在しています。城跡では龍王城、佐野山城、小坂城・青柳城(麻績)などの山城群が確認されています。

小坂城の成立

康正年間(室町時代1455~1457)に桑原氏により築城された山城であるとい

われます。現在の龍洞院あたりに根小屋を築き、山城と一体となった典型的な豪族居館型山城です。

戦国の世天正12年(1584)、上杉景勝により稲荷山城が築城され、景勝は西方の小笠原氏を警戒するため、小坂城築城から100年近く後の天正年間に大改修されたと考えられています。これが今に残る小坂城の姿です。城からの眺望がきくことから山城間の伝達手段「のろし」をあげるには絶好の場所であったと思われま。稲荷山城は小坂城を改修するために築城されたものと推測されています。



小坂城郭跡



小坂城跡の標柱

小坂城跡の現状

築城あるいは改修された当時の遺構が良好な状態で保存されており、かねてからの地元の要望もあり平成27年4月、千曲市指定文化財に指定されました。史跡指定範囲は南北600m、東西200m以上に及び、指定面積は3万5000平方mです。

主郭を中心に郭群・堀切・土塁・石垣積みなどで防御施設が構築されています。小坂城跡からは冠着山を正面に坂城町、右手には姨捨、左手には松代海津城、眼下には千曲市内が一望できます。しかしながら樹木が生い茂

る夏季は眺めることができません。冬季には枝葉の間からかろうじて見ることができます。

今後の課題として登城できる遊歩道の整備を進めるとともに、景観を確保するため樹木の伐採を含めて検討を要すると思えます。

おわりに

祖先が長きにわたり護ってきた地域の歴史や文化財は、今住んでいる私たちの宝であり誇りでもあります。これからの歴史の伝承、文化財の保護は地域の皆様のご理解とご協力が不可欠です。今後とも

文化財の保護・保全に関心を持って協力をしてまいりたいと思えます。

稲荷山公民館長

中山 洋一

参考資料(地図を含む)
「千曲市文化財センター文化財指定書」

